

馬獣医のよもやま話⑧ 富樫雄三獣医師

厩舎の消毒について

門別診療所 富 樫 雄 三

今年は新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延しているため、感染症の拡大防止に対するみなさまの関心も高まっているのではないのでしょうか。今回は馬、特に当歳馬の感染症防御に有効な厩舎の消毒についてお話をします。

感染症の拡大防止のための3つの要素は1. 感染源対策、2. 感染経路対策、3. 感受性宿主対策です。1. は病原微生物への対策、2. は感染馬の隔離や道具の取り扱いへの対策、3. は病気にかかりやすい馬への対策（ワクチンなど）です。消毒がかかわるのは1. と2. です。

流産や当歳馬の下痢症など急を要する消毒に比べて定期的な厩舎の消毒となると意識が向かないかもしれません。しかし、当歳馬の肺炎の原因であるロドコッカスエクイ、下痢の原因である馬ロタウイルスはともに環境中で長期生存することが知られています。当歳馬が成長するとかからなくなるのですが、環境中に残り来年の当歳馬の発症原因となりますので定期的な厩舎の消毒は長期的に考えると必要なことです。

手順は洗浄、乾燥、消毒です。消毒薬は有機物（土、排泄物、体毛、敷きワラなど）があると効果が減ってしまうものが多く、まずは汚れを洗い落とすことが必要です。少なくとも当歳馬の顔が届く高さまで洗うとよいでしょう。次に、消毒薬は薄まると目的の効果が発揮されないため、洗浄した厩舎がなるべく乾いてから消毒液を散布します。

馬房や通路が土である厩舎は上記理由により消毒は不十分となります。ロドコッカス肺炎や馬ロタウイルスによる下痢が毎年発生しているなら病原微生物が定着しているおそれがあるので土の入れ替えを実施するのがもっとも効果的です。

馬産地でおもに使われる消毒薬は逆性石鹼系（商品名：パコマ、アストップ、クリアキルなど）、塩素系（商品名：ビルコン、クレンテな

ど）、消石灰です。上記のロドコッカスエクイ、馬ロタウイルスに効果のあるのは塩素系と消石灰です。このどちらかが毎年発生している場合は塩素系（液状のため消石灰より壁面に散布しやすい）で消毒するとよいと考えます。

最後に、消毒薬は高温になると効果が大きい傾向にあります。それを考慮すると消毒は寒くなりすぎる前に実施するのがよいと思います。

厩舎の消毒における注意点をもう一度書いておきます。

- ・消毒液散布前に洗浄すること
- ・当歳馬の疾患が毎年発生しているなら塩素系消毒薬を用いること

手間ではありますが、消毒により当歳馬の感染症のリスクを大幅に下げることができます。ぜひお試しください。



図：塩素系消毒薬の一例

画像元

https://vet.cygni.co.jp/include_html/pdf/attachment/DY202614.pdf

<https://www.meiji-seika-pharma.co.jp/animalhealth/la/pdf/ECRT.pdf>